日刊 動労千葉

87. 9. 28

No.2664

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一―八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二(22)七二〇七

国鉄「分割・民営化」反対！三里塚二期工事阻止！

遺志を引き継ぎ闘いぬく！追悼集会に450名

9・24集会報告 その上

関川さんが創った動労千葉の発展を
―中野委員長―

十三時すぎよりとり行われた追悼集会は、布施書記長司会のもと進められた。

関川前委員長の遺影を前にして、静かではあるが心の底から熱い決意がこみあげてくるようであった。

全参加者で黙祷を行った後、主催者を代表して中野委員長が挨拶を行った。「昨年五月入院、手術後も一年間OB会、労住協の仕事を務め、今年七月に再入院し、一年間不屈に闘ってきたが、六一歳で逝去された。残念です。関川さんが委員長であった時の労働運動をもう一度生きているうちに創りあげたかった。関川さんが愛した国鉄、何よりも関川さんが創った動労千葉の発展のため頑張ることが関川さんに応える唯一の道だ。本日の集会はそういう決意の場である」と動労千葉の不退転の決意を語った。

関川さんこそ大衆路線そのもの
―成毛県労連議長―

その後、次々に各界の人士より追悼の言葉が今は亡き関川前委員長に送られた。

まず、県労連を代表して、成毛藤吉議長は「まさか私が追悼のことばを述べるとは思わなかった。私が『鬼の動労』と言うと『それを言うなら鬼の動労、仏の関川と言ってくれ』と怒られたこともあった。三里塚闘争から動労千葉の全面に立って闘ってきた関川さんこそ大衆路線そのものだった」と生前の闘いをたたえた。

伊原完輔前県労連議長は「大勢の先輩、同僚、労働運動の中で知り合った仲間が集まり惜しむということは、亡くなった関川さんとしても本当に喜んでいると思う。県労連でも教宣部長として活躍してもらい、運動にも積極的に協力してもらった。忘れえぬ一人だ」と県労連での活躍をたたえた。

公労協を代表して永野孝・全逓千葉地区本部委員長は「県公労協議長になった七六年から七八年は、スト権ストの処分に対する闘争、五万人削減化物合理化反対闘争、三四回総選挙闘争、全逓マル生闘争などがあり、関川さんはこれらの闘いにジェット燃料貨車輸送阻止の闘いの先頭にたちながら県公労協の闘いを指導し、公労協の前進に大きな成果をあげた」と絶賛した。

組織の指導者は関川さんのように
―清水労福協議長―

福祉団体を代表して清水光明労働者福祉協議会議長は「大衆闘争の時はかならず出る人だった。組織の指導者は関川さんのようでなければならない。運動や事業活動に対する真摯な態度と高い見識をもっていることについて私共は、今後の運動の中に引き継いでいきたい」と決意を語った。

社会党千葉県本部を代表して赤桐操参議院議員が挨拶を述べ「関川さんに会ったのが七月下旬であったが元気であり、入院されたのも知らなかった。八月下旬に入院を知り、その直後亡くなり残念です。動労千葉は昔から新鮮で、県の中でも大きな役割を果たしてきた。社会党が今日あるのも関川さんの御尽力の賜物です」と語った。

小川国彦衆議院議員は「関川さんとは三〇年来活動を一緒にやってきた。思いやりがあり、その中に筋を一本通す人であった。成田市民軽音楽団のメンバーであり、普段の委員長の姿からは想像できない面もありました。動労千葉勇退後も考古学研究所の一員として発掘に行ったり、町内のカラオケ同好会の先生になるなど公私にわたり愛された人でした」と幅広い活動を紹介した。

日本婦人会議の土屋さくさんは、「私よりひとまわりも若い関川さんに追悼のことばを述べなければならないことに憤を感じる。今、人生八十年、九十年と言われる中でやっと半ばを過ぎたところです。人生は、立派なことをしてきた人ほど長く生きて私達を見守ってもらいたい」と語り逝去を惜しんだ。

（つづく）

遺影を前にして参加者は別れを惜しんだ

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！